

令和3年度「地域とともにある学校づくり」推進フォーラム

7月7日(水) 前沢ふれあいセンターチェリーホールを会場に、県南教育事務所管内「地域とともにある学校づくり」推進フォーラムを開催しました。今年度は、コミュニティ・スクール(以下CS)に対する考えや思いをさらに深めて、導入を強く推進していただくため、秋田県生涯学習センター社会教育主事であり、元文部科学省CSマイスターである皆川雅仁氏をお招きし、シンポジウムと講演を行いました。県立学校からの参加もあり、総勢170名ほどが参集しました。

【シンポジウム】

「コミュニティ・スクールになったら、何がどうなったの!?!
～三ヶ尻小学校のコミュニティ・スクール運営を例に～」

<コーディネーター>

秋田県生涯学習センター 社会教育主事 皆川 雅仁 氏

<シンポジスト>

金ヶ崎町立三ヶ尻小学校 校長 城生野成則 氏
金ヶ崎町立三ヶ尻小学校 前学校運営協議員 板宮 成悦 氏



【シンポジウム】

シンポジストのお二人から、三ヶ尻小学校のCSの実際について、学校と地域それぞれの立場から、学校運営協議会の実情やその取組、そしてCSの可能性や学校に関わる地域住民の思いをお話していただきました。

<城生野校長先生>

- 学校運営協議会では、学校方針等を理解してもらうために、具体的な地域学習の事例をもとに説明している。
- 以前から行っている「地域学習」を価値づけしてくれるのが学校運営協議会と捉えている。
- 学校運営協議会を使って、「学校を高める、地域を高める」ことがCSの価値であると思う。
- CSの良さを教職員にわかってもらうためにも、具体的な成功体験を実感してもらう仕組みづくりが課題である。

<板宮氏>

- 学校運営協議会で、学校と地域の共通の話題であれば、地域からの意見等が言いやすい。
- CSが浸透している地域になれば、楽しく学校に関われるし、学校の活動からエネルギーをもらえる。

【講演】

「なぜ、今コミュニティ・スクールなのか」
～CSがもたらす新たなネットワーク～

<講師>

秋田県生涯学習センター 社会教育主事 皆川 雅仁 氏



【講演】

皆川先生から、コミュニティ・スクールを導入する意義や「熟議」の大切さ等、学校運営協議会を効果的に機能させていく方策をご教示していただきました。

- 学校は地域の要(拠点)たる存在であるべきだから、地域を意識しない教育課程はあり得ない。CSは、キャリア教育や防災教育を軸としたカリキュラム・マネジメントを実現するための最適なシステムである。
- 学校と学校運営協議会は、同じ目標に向かい行動する「運命協働体」である。学校運営協議会と「熟議」をリンクさせ、交互に開催することで、議員の責任を促し、会議のマンネリ化を防ぐことが期待される。
- CS推進により緩やかなネットワーク(地域の横のつながり)が創り出され、地域の活性化につながる。
- 「CSに先行事例なし」と言われるように、地域の実態に即したCSがある。自校の地域を見つめ直すことが大切である。

参加者の主な感想

◆学校運営協議会の持ち方の具体が聞いて大変実りあるものとなった。◆地域から見た学校の姿について考えさせられた。◆学校評議員制度や教振とのちがいを再確認することができた。◆熟議を取り入れた学校運営協議会が有効であると感じた。◆学校運営協議会設置までの流れとして地域との対話を生かした段階的な活動が大切だと感じた。